震災後の県内観光動向

東日本大震災(以下、「震災」という。)により、宮城県内の観光業は施設等の被害に加えて風評被害などの大きな打撃を受けました。震災後1年半が経過し、徐々に復興に向けた動きがみられるものの、いまだに震災前の観光客数の水準には戻らず厳しい状況が続いています。今回は震災後の県内の観光動向についてとりまとめてレポートします。

1．平成23年観光統計概要（速報値）について

平成23年の宮城県の観光客数（速報値）は、4,322万8千人となり、前年に比べて1,805万8千人（▲29.5%）減少しました。

観光客数を圏域別にみると、仙台圏が2,422万8千人と全体の56.0%を占め最も多く、次いで、大崎圏が885万4千人（構成比20.5%）、仙南圏が438万1千人（同10.1%）、登米圏が228万8千人（同5.3%）などとなっています。前年からの増減状況をみると、津波被害が甚大であった石巻圏（前年比▲56.8%）、気仙沼圏（同▲78.1%）など沿岸部で大幅に減少しています。また、仙台圏（同▲28.1%）、大崎圏（同▲11.2%）など内陸部についても、観光施設が被災したことや震災後の自粛ムードが高まったこと、原発事故による風評被害、各種イベントの中止などを背景に減少しています。

宮城県の観光客数の概況　（千人、%）

	観光客数						
	平成21年	平成22年	平成23年	増減(H22対H23)		増減(H21対H23)	
				実数	増減率	実数	増減率
合計	61,203	61,286	43,228	▲18,058	▲29.5	▲17,975	▲29.4
仙南圏	5,875	5,672	4,381	▲1,291	▲22.8	▲1,494	▲25.4
仙台圏	33,389	33,680	24,228	▲9,452	▲28.1	▲9,161	▲27.4
大崎圏	10,601	9,974	8,854	▲1,120	▲11.2	▲1,747	▲16.5
栗原圏	879	1,132	770	▲362	▲32.0	▲109	▲12.4
登米圏	2,485	2,772	2,288	▲484	▲17.5	▲197	▲7.9
石巻圏	4,345	4,432	1,915	▲2,517	▲56.8	▲2,430	▲55.9
気仙沼圏	3,630	3,624	792	▲2,832	▲78.1	▲2,838	▲78.2

	宿泊客数						
	平成21年	平成22年	平成23年	増減(H22対H23)		増減(H21対H23)	
				実数	増減率	実数	増減率
合計	7,871	8,047	8,417	370	4.6	546	6.9
仙南圏	577	607	672	65	10.7	95	16.5
仙台圏	5,474	5,649	6,439	790	14.0	965	17.6
大崎圏	957	926	963	37	4.0	6	0.6
栗原圏	43	87	60	▲27	▲31.0	17	39.5
登米圏	32	26	22	▲4	▲15.4	▲10	▲31.3
石巻圏	323	311	45	▲266	▲85.5	▲278	▲86.1
気仙沼圏	466	441	216	▲225	▲51.0	▲250	▲53.6

注1)四捨五入の関係で合計等が一致しないものもある。宿泊客数は観光客数の内数。
2)各圏域内の市町村は以下のとおり。
・仙南圏　白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町
・仙台圏　仙台市、塩釜市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村
・大崎圏　大崎市、加美町、色麻町、涌谷町、美里町　・栗原圏　栗原市　・登米圏　登米市
・石巻圏　石巻市、東松島市、女川町　・気仙沼圏　気仙沼市、南三陸町

資料：宮城県「観光統計概要(速報値)」

一方、平成23年の宮城県の宿泊客数の概況をみると、宿泊者総数は841万7千人となり、前年に比べて37万人（同4.6%）増加しました。

宿泊客数を圏域別にみると、仙台圏が643万9千人と全体の76.5%を占め最も多く、次いで、大崎圏が96万3千人（構成比11.4%）、仙南圏が67万2千人（同8.0%）などとなっています。前年からの増減状況をみると、津波により宿泊施設が被災した石巻圏（前年比▲85.5%）、気仙沼圏（同▲51.0%）などは大幅な減少となりましたが、仙台圏（同14.0%）、仙南圏（同10.7%）、大崎圏（同4.0%）では増加となりました。これは、復旧・復興関連の建築・土木関係者、警察・消防関係者、ボランティアなどの宿泊が大幅に増加したことによるものです。

また、教育旅行（修学旅行や遠足等）で宮城県を訪れた入込客数でみると、平成23年は前年比▲44.7%の約8万4千人と大幅に減少しています。これを県内、県外客別でみると、県内客は▲20.9%、県外客は▲76.6%となっており、県外客の落込みが目立つ状況となっています。これは、余震や原発事故を背景に旅行先としての安全性等が懸念されたことや観光施設が被災していたこと、復旧・復興関係者などの増加で十分な宿泊施設が確保できなかったことなどが影響したものと考えられます。

教育旅行入込客数　（単位：人、%）

	平成22年	平成23年	増減率
県内客	86,835	68,673	▲20.9
県外客	64,526	15,097	▲76.6
合計	151,361	83,770	▲44.7

資料：宮城県観光課

2.「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）」について

宮城県では、震災復興に向けた観光振興策として「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（ＤＣ）（平成25年4～6月）」（※）の開催が決定しており、そのプレキャンペーンとして平成24年4～6月に「仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン」が行われました。

プレキャンペーン期間中の観光客入込数は619万3千人となり、前年に比べて303万9千人（96.4%）増加しました。これは、前年が震災直後で大きく落込んだ反動であり、震災前の平成22年との比較では99万8千人（前々年比▲13.9%）の減少となっており、依然として震災前の水準には戻っていない状況となっています。また内訳をみると、観光施設は430万8千人となり、前々年に比べて97万5千人（同▲18.5%）、祭り・イベントは188万4千人となり、2万4千人（同▲1.2%）減少しました。

来年の仙台・宮城ＤＣは、平成20年10～12月以来2回目の開催となりますが、前回ＤＣ開催時に当行が推計した経済波及効果は約240億円となっており、今回も県内の経済活性化に大きく寄与することが期待されます。今後、県、市町村、観光業者のみならず、地元企業・団体等が連携を深め、前回以上の成果をあげられるよう取組みを強化していく必要があると考えられます。また、前回と異なり、被災地の観光という企画等をどのようにＤＣに盛込んでいくかも課題になると捉えられます。

※開催地の自治体や観光関係者とＪＲグループが連携して実施する大型観光キャンペーン

プレキャンペーン結果（平成24年4～6月）　（千人、%）

	平成22年	平成23年	平成24年	増減（H22対H24）		増減（H23対H24）	
				実数	増減率	実数	増減率
観光客入込数	7,191	3,153	6,193	▲998	▲13.9	3,039	96.4
観光施設	5,283	2,928	4,308	▲975	▲18.5	1,380	47.1
祭り・イベント	1,908	225	1,884	▲24	▲1.2	1,659	736.9
宿泊客数	494	656	566	72	14.5	▲91	▲13.8

資料：宮城県観光課

（注）キャンペーンエリア内の主要な観光施設等109カ所を選定したサンプル調査